

平成30年度 北九州市立大谷中学校 経営方針

北九州市立大谷中学校
校長 伊藤 純次

1 校訓 「敬愛 真実 実行」

【敬愛：尊敬と親しみの心をもつ。真実：嘘偽りのない、ありのままの姿。実行：行動に移すこと。】

2 学校教育目標

規律ある学校生活を通して、確かな学力を身につけさせ、
思いやりのある心豊かな生徒を育成する

<めざす学校像>

- 教職員と生徒が信頼関係で結ばれ教育目標に向かって前進する学校
- 明るく活気にあふれ、生徒・教師が安心・安全に生活できる学校
- 規律が守られ、あいさつと読書から1日が始まる美しい学校
- 保護者や地域から信頼される学校

<めざす生徒像>

- 「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒（挨拶、返事、言葉遣い、清掃身だしなみ）
- すすんで学び、正しく判断し、強い意志を持って行動できる生徒
- 心身ともに健康で、自他を愛し、人権尊重の精神に富む生徒
- 感謝の気持ちを持ち、人のために力を発揮し、社会貢献のできる生徒

<めざす教師像>

- 教育公務員としての使命と責任を自覚し、常日頃から指導力向上に努める教師
- 教育的な温かさや厳しさにあふれ、責任ある態度と教育実践で保護者や地域から信頼される教師
- 生徒のために「知恵を出し、汗を流す」ことを惜しまない教師
- “チーム大谷”として学校運営に積極的に参画し、協働意欲の高い教師

3 本年度の重点目標

(1) 規律ある生活習慣の確立

（「時を守り、場を清め、礼を正す」と組織的・機動的な生徒指導体制の確立を図る。）

(2) 確かな学力育成

授業規律の確立に努めるとともに、家庭学習習慣の定着と補充学習（放課後教室等）に関する実践を模索する。

- 学習習慣未定着の生徒、基礎基本的な内容に課題を持つ生徒に対する補充学習に取り組む。

(3) 人間性豊かな生徒（豊かな心と健やかな体）を育成

学校行事、体験活動、人権教育、特別支援教育、食育、部活動等の充実を図る。

(4) 小中一貫・地域連携教育の推進

学校・家庭・地域の連携を一層深め、信頼される学校づくりを推進する。

(5) 特別支援教育の推進

障害のある個々の生徒の自立や社会参加に向けた取組を支援するという視点に立ち、適切な指導及び必要な支援を学校全体で行うとともに関係機関との連携に努める。

(6) 組織的・機動的な学校運営を推進し、活気あふれた職場づくりを推進する。

4 重点目標達成のための具体的な方策

(1) 規律ある生活習慣の確立と組織的・機動的な生徒指導体制の確立

- ① 目標達成のため、師弟同行を踏まえ全職員で次の実践に取り組む。
 - 時を守る（時間厳守、チャイム席）
 - 場を清める（掃除の励行、環境美化）
 - 礼を正す（あいさつ、「ハイ」という返事、言葉遣い、正しい服装）
- ② 組織的・機動的な生徒指導体制の確立のため、週1回の生徒指導委員会の有効活用と、教師と生徒とのあたたかい人間関係に基づいた生徒指導を推進する。
- ③ 生徒指導の3つの原則を徹底する。
 - 危機回避 ※「先手を打ち、問題行動が生じない状況作り」
 - 鮮度が命 ※「その日にあったことは、その日に対応」
 - 危機管理の“さしすせそ” ※「報告・連絡・相談・確認と記録」
- ④ 生徒会執行部や専門委員会活動の活性化を図った生徒会活動を充実させる。

- 組織的、機動的、積極的生徒指導を実現するために「報告・連絡・相談」を重視し、職員間における情報の共有を心がける。
- 担任、学年任せにしない。

(2) 確かな学力の育成（授業規律・授業改善・家庭学習習慣の確立）

- ① 授業規律確立（「チャイム席、始業と終業の挨拶、正しい姿勢と聞く態度、忘れ物、学習環境の整備」）のため、全職員で学習ルールの定着に取り組む。
- ② 一時間一時間の授業を大切に「わかる授業（できる授業）」を推進するため、アクティブラーニングの視点に立って授業改善に努めるとともに、「目標（めあて）」「まとめ（わかった・できた）」が明らかに示された授業を行う。
- ③ 授業改善ハンドブック等の活用、並びに授業におけるPCや電子黒板、ICT機器等の積極的な活用。
- ④ 基礎学力の定着・向上に取り組むため、朝の10分間読書や図書館の活用等の読書活動の充実、週末課題等の家庭学習習慣の確立に努める。
- ⑤ 学習指導要領に基づく指導と評価の一体化に努める。
- ⑥ 補充学習（放課後教室・大中塾の取組等）を実施する。生徒の自学自習を基盤に、個の応じたきめ細やかな指導
- ⑦ 教職員相互の指導力向上を図る授業研究や授業交流を実施する。
- ⑧ 教職員が知恵を出し合い、全校的な取組につなげ生徒の学力向上を目指す。

(3) 人間性豊かな生徒の育成（豊かな心と健やかな体）

- ① 生徒は、一個の人格として対等であることを常に意識し、不適切な言動を教師自らが戒める。
- ② 「いじめ」については、「人として絶対に許されない」という認識に立ち、「命」を守り抜くという人権確保にむけ、学校をあげて即日対応で取り組む。
- ③ 集団の一員としての自覚と愛校心の高揚を図るため、学校行事、体験活動、生徒会活動等の充実を努める。
- ④ 健康で安全な生活を送るため、自分自身だけでなく、他人の大切さも認めることができる人権感覚を育てるとともに、学校給食を生かした「食育」指導を推進する。
- ⑤ 道徳的実践力向上のため、道徳の時間を確保し、「新版：いのち」や「わたしたちの道徳」、「副読本」等の補助教材の有効活用を図る。
- ⑥ 部活動を通して、礼節を重んじ、心身の健康と子どもの意欲を高め、個性を伸ばす場と考え、その推進に努める。
- ⑦ 「人権教育ハンドブック」「明日への伝言板」「かけがえのない命を大切にするために」等の計画的な活用を図る。

(4) 小中一貫・地域連携を基盤とした信頼される学校づくり

- ① 小中一貫・地域連携教育の効果的な取組を模索し、児童生徒の育ちの連続性を意識した教育活動を実践する。

- ② 積極的な家庭訪問による家庭との連携を強化する。
- ③ 保護者や地域の理解と信頼を得るために、積極的に情報を発信するとともに、PTAとの連携や地域会議、小天山笠等の地域行事に積極的に参加する。

- 学級、学年、学校通信による学校から家庭・地域に対する情報発信を試みる。
- 山笠に関する「アンケート」を参考にした改善。(特に安全面)
- 地域に積極的に出向き、地域と共に活動する中で学校の教育実践を啓発する。⇒開かれた学校

- ④ 学校改善のため、学校評価や学校評議委員会等を効果的に活用する。
- ⑤ 計画的・組織的なキャリア教育展開し、自己実現を図る資質を育成する。

(5) 特別支援教育の推進

- ① 全校体制による特別支援学級の指導の充実を図る。
- ② 特別支援教育コーディネーターを複数配置し、特別支援教育委員会を基盤に、特別な支援を要する生徒一人一人の教育的ニーズに応えるため、校内研修の充実と関係機関の連携を深める。
- ③ 個々の生徒の生活面や学習面の向上に適切な指導や支援を組織的に行う。

(6) 組織的・機動的な学校運営と活気あふれる職場づくり

- ① 機動的な学校運営を行うため、週1回の校務運営委員会を有効に活用する。
- ② 明るく活気あふれた職場づくりを推進するため、“チーム大谷”として協働意欲のもと校務運営を推進するとともに、情報の共有化等、日常の報告・連絡・相談(「ホウ・レン・ソウ」)を積極的に行う。
- ③ 心と体の健康管理に努め、ワークライフバランスを推進する。
- ④ 教育公務員としての使命と責任を深く自覚し、綱紀粛正に努める。(個人情報等の管理、セクハラ・体罰・不適切な発言・飲酒運転等の防止 他)
- ⑤ 効率的で正確な事務処理を行うため、校務支援システムの活用を推進する。

その他

(1) 学校図書館教育の推進

- ブックヘルパーと連携して学校図書館の環境整備に努める。
- 生徒専門委員会の活性化を図り、利用しやすい図書館運営に努める。
- 読書に親しみ、習慣化が図られるよう蔵書や新刊の整備に努め、図書館の活用や生徒の利用数を増やす。

(2) 健康・安全教育の推進

- 生徒、教職員の健康維持増進に努める。(内科検診、定期健康診断等の適切な実施と健康相談)
- 生徒指導部を中心に全教職員が、教育活動全般にわたる健康・安全教育の推進にあたりるとともに、事故発生時には迅速かつ適切に誠意をもってあたる。(初期対応の徹底に努める)
- 薬物乱用、喫煙防止等健康教育を徹底し、生徒の健全育成に努める。
- 学校給食を生かした「食育」指導を推進する。
- 避難訓練・防災訓練等を計画的に実施する。(自分の命は自分で守る)

(3) 国際社会に貢献できる能力と実践的態度を育成する国際理解教育

- 学校における教育活動を通して、日本人としての自覚をもち、我が国の伝統や文化に誇りをもち、併せて諸外国の文化を理解し、人間尊重の精神や共に生きようとする実践的な態度や資質を育成する。

(4) 情報化社会に対応した情報教育

- コンピュータを有効に活用し、生徒のコンピュータ・リテラシーの育成に努める。
- 携帯電話やPC等の電子機器によるトラブルを予防するための情報モラルアップを

図り、保護者へも啓発する。（他人を傷つけたり迷惑を掛けたりしないスマホ、ライン等の使い方やルールについて）夜10時、スマホ、ケータイの電源OFF運動に努める。

(5) 校務支援システムの活用とスキルアップ

ICTサポーター等の指導のもと校内研修の充実を図る。